上桜田町内会の役員を経験した者として、その運営に様々な問題意識を持ち、2020(令和2)年頃にメモを作成していました。

この度、下図記事に触れ、改めて問題意識が沸き上がったことを踏まえて、議論の素材にして貰いたく公開するものです。記事では「町内会の活動をブラックボックス化させないことが重要」と指摘しています。吾が上桜田町内会は、もちろん、監査役の監事もおり、定時総会もあり、規約もあり、会計報告もあります、世にいう組織の体裁の外形状は整っているでしょう。

しかし、一般会員にあえて知らせていない、一般会員は知らない隠された部分があります。この実態を知ったら必ずや大きな問題、深刻な問題と捉えるはずで。一部ブラックボックス化されています。

2025(R7)/04/23(水)山形新聞

地域活動への若者参加

交流魅力でも「情報が不足」

村山総合支庁モデル事業

報告書、SNS活用提案

若者が町内会や地域の活動を体験し、地域コミュニティとの関わり方を探る県村山総合支庁のプロジェクト「むらやま若者みらい創造モデル事業」の報告書がまとまった。若者は世代を超えた交流に魅

力を感じる一方、関わり方が分からず地域活動に踏み出せずにいると指摘。参加意欲を高める仕組みづくりや交流サイト(SNS)による情報発信を提案した。

同事業は2023、24年度の2カ年計画で、県内の高校生や大学生、本県とゆかりがある首都圏在住者など17人が参加した。町内会活動などに加わって地域住民と交流を深め、メンバー同士で関係人口の拡大について意見交換を重ねた。地域コミュニティに関するアンケートも実施した。

若者が地域活動への参加をためらう理由として、活動内容や参加方法などの情報不足を挙げた。地域内に頼れる人がいないなど、希薄な関係性を指摘する声もあった。町内会の活動をブラックボックス化させないことが重要とし、SNSで参加者の募集やイベントの開催報告を行うと若者の目に止

まりやすとした。

プロジェクト型の実践活動を望む若者は多く、地域コミュニティに関わる意義や役割を見いだしやすいとなると強調。既存の活動と若者の興味関心を組み合わせたいアイデアとして、地元の祭りの踊りを伝統芸能体験としてアピールし、現地で練習会を開くことなどを提案した。地域と若者をつなぐコーディネートターの必要性にも触れた。

同総合支庁総務課連携支援室は「若者が地域に目を向けるきっかけとなったことは一つの成果だ」としている。25年度は若者の定着や帰郷をテーマにした事業を展開する。

(小田信博)

以下、「上桜田町内会」を「本会」と記述する。

まずは私の会社生活との係りから。1968（昭和43年）に会社生活に入り、2009（平成21）年に満60歳で定年退職するまで41年長の民間企業（インフラエネルギー産業）のサラリーマン生活を送って来た。新入社員平職から管理職まで経験して来た。この間、16個所の職場を経験（1個所当り平均2年6か月長の勤務期間）し、私自身の住まい（住処）は延べ17個所、家族だけでも10個所におよび、その都度引っ越し・住み替えを行って来た。社内のみならず、郷に入っては郷に従えて、様々な職業の数多の人達との交流を図って来た。

そして、吾が住まいの地元との係りから。1988年（昭和63）年8月にこの地（山形市上桜田）の住民となり、2020（令和2）年で約32年である。また、この32年間、本会の会員として地区に溶け込んで来た。

ここで、吾が地域の歴史上の大きな節目となった芸工大前土地区画整理事業の歴史的経緯を簡単に整理しておく。最初、1988（昭和63）年に地権者有志などから声が上がった。まもなく4年制大学誘致のことも持ち上がり区画整理事業の準備は一旦休止した。そして、1998（平成10）年4月に芸工大前土地区画整理組合が設立され、10年の歳月を経て2008（平成20）年12月に事業が完了した。事業以前は約100世帯余りであったが、2020（R2）年の今は約500世帯（持ち家約300世帯大+借家・アパート200世帯大）以上に、持ち家だけでも3倍以上の規模に大きくなった。

そんな環境下、私は、2015（H27）年度と、2016（H28）年度の1期2年、本会の執行役員6名中の一角（副会長兼総務部長）を務めた。定年退職——2009（平成21）年60歳——から6年後の66歳～67歳の時であった。歴史街道スルーハイク遊学紀行を楽しんでおり、四国八十八か寺徒歩へんろを計画中であったことから引き受けには躊躇したが、前役員求めに応じ引き受けた。引き受けたからは任期中の全力投球を誓った。

このような経過の中で、年会費を支払う本会の会員として、地域の住民として様々な問題意識が湧いて来た。私の問題意識——問題とは、今、賛否の大論争が起きているとか、裁判闘争をしているとか、対立・喧嘩しているとかそう言ういわゆる具体的なトラブル・不祥事ではない。——は次のようなことである。

がしかし、結論的に言うと、

{ 本会地域エリアに網を掛けて、強制的に年会費を納付させられる本会は必要ですか？
年会費を納付して、その恩恵（対価サービス）は何かありますか？
本会は何をやっているのですか？
年会費の徴収に当って不公平はありませんか？
世帯構成に無関係に一律同一の年会費は公序良俗に反しませんか？ }

本書は、一市民として、町内会一般会員として、本会執行役員を経験したことごとを踏まえて私が感じた、感じている「もの・こと」に従順になり、率直、かつストレートな言葉を以て整理・記録するものである。

なお、役員任期中は職責全うのために全力を傾注したつもりであったが、力及ばずの点が多々あった。私の大いなる反省点等を含み、思う処のままに、一人想定問答（QA）・一人シミュレーション・自問自答の手法を含んで、潜在する問題の先取り視点と改善提案の意図から整理する、ただし、私の考え方は多面的、多様な見方の中の一面に過ぎない。

2020(令和2)年頃に作成したメモであり、様々な数値は変動・変化しているが、課題・問題の基本は当時と何も変わっていない。

前記、一部ブラックボックス化と記述したが、深刻な問題を含むことから一部というよりも全体がブラックボックス化しているといっても過言ではないと思っている。

吾が上桜田町内会には、憲法違反、人権侵害と受け止められる重大問題を内包している。本件記載内容はただ単に批判するための材料にはしていない、改善提案とセットで示し、大いなる問題提起である。次ページ以降は、そのようなことからの私の問題意識と問題提起を具体的に整理したものである。独り言であるから率直にストレートに記述している。本書が読み手の思索を深めるための何らかのヒントになればと思っている、それに資するものとして、一つの引き金として、たたき台として受け止め、活用して頂ければ幸いに存じ上げる。賛否があるのは十分承知している、賛否のいずれかに同調を求めるものではない。いずれにしても、読み手の方が、その聡明な頭脳を以て、自由に解釈して貰えばいいし、想像力と創造力を逞しく発揮し自由に展開し、ご自分の世界へ反映して貰えばそれで結構である。

時々の賢明な執行部は、広範な課題について、多角的かつ大所高所から検討されるものと期待を込め提言するものである。

(end)